

【教育長賞】みんなと過ごした給食の時間

丈山小学校 山口 幹太

ぼくは給食が大好きです。

なぜなら、毎回給食はおいしいし、時々でる新しいメニューが並んでいるのを見ると、どんな味がするか、楽しくなります。

そんな給食が大好きなぼくの給食の思い出を三つしようかします。

みんなと食べた給食について思いうかべると、一番に思いうかぶのは、牛乳かんぱい！です。

今のぼくのクラスでは、クラスみんなで言う行事、レクや、クラスが団結した日の給食は、みんなで机を丸く大きな円にして、みんな牛乳を持ち、かんぱいをします。

いつもは牛乳のきれいな人が多くて、牛乳があまっているけど、かんぱいをした日の牛乳はほとんど残りません。

ぼくは牛乳がすきななので牛乳が残っているのを見ると、悲しいです。

でも、かんぱいをした日の牛乳はほとんどあまらないのでとてもうれしいです。

ぼくは、三年生の時、牛乳を二本飲んだらおなかをこわしてしまったので、本当はもっと飲みたいけど、いつも一本にしています。

二つ目は、しっかり味わえない給食です。

ぼくは、前期放送委員なので、当番の日は給食を放送室へ持っていき、放送前に食べ終えます。

当番の日はいつもきんちようしています。

放送を始める時間が決まっているので、急いで給食を食べないといけません。

いつものように、おいしいなあとか、幸せーと
思っただけだと、とても間にあいません。

きんちようしているの、いつもとちがう給食の味がします。

食べる時、おいしいと思うけれど、おいしいという気持ちにひたつてはいけません。

でもそんな急いで給食を食べている時、おいしきで給食はがんばれとはげましてくれているようです。

三つ目は給食当番です。

ぼくは給食当番が四年生の時まで少し苦手でした。

なぜかという、クラスのみんなが食べる給食をぼくが運んだり皿に入れたりするのはとてもきんちようするからです。

でも五、六年生になると、給食当番を少し自信を持って、仕事ができるようになりました。そうなれた理由は、友達ががんばっているのを見たからです。ぼくの友達が足のけがをしているのに、しっかりと当番の仕事をしているのを見て、すごいなあ。と思いました。

ぼくもすっかりと給食当番の仕事をしなないといけないと思いましたが、失敗するかもしれないけど六年生最後までがんばります。

いつもおいしい給食をありがとうございます。給食であげパンを食べてみたかったです。